

生き方 中学校・高校



中学校・高校1年

総合

産社

プロジェクトX 挑戦者たち

43分

黒四ダム 断崖絶壁の難工事 (2002年放送)

この番組の良さ



働くことの意義・責任感を学ぶ

平成21年度は新規高卒者の内定率や求人倍率が著しく低下しています。こういう時代だからこそ働くことの意義を真摯に捉え進路を考えていくことが今まで以上に重要になってきます。

番組では黒四ダムの建設の様子を具体的に知ることができ、誇りと信念を持ち、責任を持って完遂する現場の姿から、働くことの意義について考察を深めることができます。

キャリアプランの設計に役立てる

後世に残る仕事をしたいという観点をもとに、「自分にとって働くとは何なのか?」といった働くことの意義について考察を深めていくことが、キャリアプランニングに取り組みきっかけとなります。またこれからの自分が「どう生きたいのか?」というライフプランの設計へ発展させていくことで、幅広い視点から番組を捉え、生涯を見つめた職業意識を高めていくことができます。

番組活用のポイント

現場責任者の声から仕事に対する姿勢を学ぶ

職業従事者の生の声として、番組から現場で中心となって活躍する責任者の話を聞くことができます。その話の中から気づいたこと(仕事に対する姿勢など)をまとめていく中で、働くことの意義ややりがい、責任感といった根本的な部分の考察を深めていくことができます。

難工事に対し責任を持って取り組む姿からは、働く姿勢など仕事に対する意識を学ぶことができます。高校1年生の早い段階で学習し進路について考察することで、目標を持って高校生活に取り組めます。

当時の映像のその苛酷さから学ぶ

番組では記録映像や写真を多数使用し、当時の過酷な建設の様子を明確に表現しています。その貴重な映像から黒四ダム建設にいたるまでの、高度経済成長期における日本の状況を把握することが、今日の日本の社会を再認識する上でも重要なポイントになってきます。

特に黒四ダム建設にあたって、難所、難工事であることに加えて、厳しい自然の中で取り組む過酷な映像から、将来の日本を見据えた仕事への熱意とやりがいを強く感じ取ることができます。さらにそんな学びの中から未来の自分を創造していきます。

キャリアプランの視点から職業意識を高める

「こんな仕事をしたい」、「こんな職業に就きたい」など、自分の適性を考えた仕事に出会うためには自己分析が必要になってきます。十分な自己分析をしたうえで、職業意識を高めるためには、働くことの意義に加えて、仕事に対する興味・関心を育てることがポイントになってきます。

番組では後世に残る仕事・社会に貢献する仕事という点に視点をあて、「この仕事なら生涯の仕事として取り組んでいける」という気持ちを育て、キャリアプランの設計に役立てていきます。

(森 浩三)

学習展開例

授業時間 100分 2単位時間目安

後世に残す仕事 やり遂げることの大切さを考える



時間配分	学習活動	教師の支援
7分	①昨今の高校生の就職内定率・求人倍率の減少のデータから、社会の現状を把握する。 ・現状から働くことの目的について考える。	○高校生の就職に関して、地元と全国平均のデータを用意し比較させる。 ○記入用紙を用意し、働くことの目的について考え記入させる。
43分	②厳しい現状を把握し、働くことの目的を踏まえたうえで番組を視聴する。(番組は最後まで視聴する)  視聴 TV ・映像から、情熱や責任感など気づいたことを記入する。 (開始～42分34秒)	○番組を視聴して感じたことや気づいたことを記入させる。「仕事に対する思い」など具体的な項目をあげ記入させると、より効果的に番組を捉えることができる。  現在の立山・黒部の様子 ・整備が進み観光地化されている。
15分	③「働くことの意義」について、記入用紙をもとにグループで討論する。 ・グループ内で出された意見をまとめ、発表する。 ・他のグループから出された内容を記録する。  黒四ダム建設の慰霊碑 ・この慰霊碑の横に、工事で亡くなった方の殉職者名簿が刻まれている。	○働くことの目的が収入のためだけにならないように、働くことに対するやりがい、興味・関心を引き出す投げかけが必要である。 ○各グループから出された「働くことの意義」を板書やプロジェクターなどを使用し、全体に提示することで意見の共有を図る。  難工事に取り組む様子 ・常に危険を伴う現場の風景。 ・工事機材も旧式で作業効率が良くない。
15分	④どんな仕事にやりがいを感じるか? またやってみたい仕事は何か? など自分の考えを用紙に記入する。  過酷な現場の場面 ・難所・難工事の様子を明確に映像で表現している。	○「どんな仕事をしたいか?」、「どんな仕事に興味があるか?」、「自分はどんな仕事に適しているか?」など具体的な質問を投げかけてみる。 ○「なぜその仕事に興味があるのか?」、「なぜやりがいを感じるのか?」などその理由も具体的に記入させることで、仕事に対する気持ちを明確化させる。 ○仕事に取り組む姿勢から、仕事に対する責任感や情熱を感じ取り、働くことの意義をもう一度考えさせる。
20分	⑤やりたい仕事に就くために、今後の進路に向けての取り組みを考察しキャリアプランを設計する。	○ただ進路設計をするだけでなく、今後どのように取り組んでいくのか、その方策について詳細を考えさせる。 ○発展として、合わせてライフプランを考えさせる。

小学校展開例

子どもたちに身近な題材として考えさせる

小学校では社会や理科などと関連させてみるとよい。社会では6年歴史で、戦後日本の高度成長を支える象徴的な事象として扱ったり、4年「水」の単元でダム学習から発展的に取り扱ったりすることができる。また理科では電気のはたらきなどの発展教材として、水力発電とダムの関係などを取り上げて扱うことができる。それぞれの学習の際にはダム建設の必然性や水力発電と暮らしとの関わりに触れることで、子どもたちにより身近な題材となり、ダム建設に奮闘した人々の思いに気づかせることができる。(甲斐 崇)